

可児郷土歴史館 個別施設計画

令和2年12月

(令和7年10月改訂)

可児市経済交流部 歴史資産課

目次

1	目的と位置づけ	1
(1)	目的	1
(2)	位置づけ	1
2	計画期間	1
3	対象施設	1
4	施設の現状と課題	1
(1)	現状	1
(2)	課題	3
5	今後の方向性	3
6	施設の劣化状況	4
7	施設の日常点検	4
8	対策の優先順位の考え方	5
9	対策内容と実施時期	5

1 目的と位置づけ

(1) 目的

本計画は、可児市公共施設等マネジメント基本方針（以下「基本方針」という。）および可児市公共施設等マネジメント基本計画（以下「基本計画」という。）に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として、点検・診断により得られた個別施設の状態や、維持管理・更新等に係る対策の優先順位の考え方、対策の内容や実施時期を定め、長期的な視点から財政負担の軽減・平準化を図りながら老朽化対策等に取り組むために定めます。

(2) 位置づけ

本計画は国のインフラ長寿命化基本計画（平成 25 年 11 月「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」で決定）に基づく個別施設計画として位置づけられます。

また、可児市公共施設等総合管理計画（基本方針及び基本計画）の下位計画に位置づけられます。

2 計画期間

本計画の期間は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 10 年間とします。

計画の達成状況を踏まえて、本計画は 5 年を目安に見直しを行うものとします。

なお、計画期間内であっても、社会情勢による状況の変化、事業の進捗状況等に応じ計画の見直しを行うこととします。

3 対象施設

本計画の対象施設は、以下の施設とします。

番号	施設名	所在地	敷地面積	延床面積
1	可児郷土歴史館	久々利 1644-1	6636.33 m ²	409.05 m ²
2	民俗資料館	久々利 1644-1	6636.33 m ²	138.00 m ²
3	文化財収蔵庫	久々利 1644-1	6636.33 m ²	293.90 m ²
4	春里文化財収蔵庫	塩 904	940.00 m ²	562.94 m ²

※民族資料館は令和 6 年に解体済

4 施設の現状と課題

(1) 現状

ア 施設概要（ソフト面）

施設の設置目的	歴史上又は芸術上重要な文化財を収集、保存し一般に公開してその教養を高め、愛郷心をかん養するとともに芸術及び文化の向上に寄与する。
施設の構成	展示室等

施設で行われる事務サービスの内容	開館時間：午前9時～午後4時30分 休館日：月曜日、休日の翌日、年末年始（12月28日～翌年1月4日） （祝日の翌日が土曜日、日曜日又は休日にあたる場合は開館する）
料金体系	1人1回につき 入館料：個人210円、団体（20人以上）150円、共通入館料：個人310円 （高校生以下無料、障がい者本人及び付添人は免除）

イ 施設概要（ハード面）

施設名称	建築年度	構造	階層数	屋根	外壁	耐震状況
可児郷土歴史館	S48	RC・S	1	金属・防水	吹付・タイル	耐震性有り
民俗資料館	S52	木造	1	茅葺	木	耐震性無し
文化財収蔵庫	H4	RC・S	3	瓦葺	打放し	新耐震基準
春里文化財収蔵庫	S56	RC	2	防水	打放し	耐震性無し

※構造 RC・S=鉄筋コンクリート造・鉄骨造 RC=鉄骨造

ウ 施設の利用状況

(7) 利用者数の推移

年度	利用者数	備考
H20	2,659人	
H21	2,471人	
H22	2,397人	
H23	3,533人	職員配置改編
H24	3,453人	
H25	3,208人	
H26	4,533人	
H27	4,124人	
H28	3,050人	
H29	3,335人	
H30	3,476人	
R1	5,818人	
R2	1,561人	コロナ対策のため利用自粛（休館）あり

R3	1,286人	〃
R4	1,668人	コロナ対策のため利用自粛あり
R5	2,240人	〃
R6	2,170人	

平成20年度から平成22年度までは、ほぼ横ばいの傾向（平均で約2,500人）でしたが、平成23年度から令和1年度は平均で約3,800人が利用しています。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症による利用自粛の影響により利用者数は減少し、令和2年度から令和6年度（5年間）の年平均は、約1,800人となっています。令和5年度の新型コロナウイルス感染症第2類指定移行後は、若干の増加傾向にあります。

エ その他

(7) 施設の防災面の視点

災害が発生した時は、所管課の指示のもとで利用者の避難誘導などの必要な措置を講じます。

(4) その他

指定重要文化財を始め、市の財産である貴重な歴史資料、芸術作品などを多数、収集しているため、防犯体制を含めた適正な施設管理を行っていく必要があります。

(2) 課題

○増え続ける資料への対応

歴史的資料発掘や収集に合わせ収蔵庫の建設が行われました。さらに、資料の増加に対応するため仮設収蔵庫が二棟設置されています。増え続ける資料の保管が課題となっています。

○利用者数の減少

コロナ禍を経て、減少した利用者数は増加傾向にありますが、まだ、以前の数値には回復していません。市域の歴史文化の啓発・交流施設として、団塊世代や若い年齢層など、新たな層へのアピールや関心を持たれる企画の実施などを検討していく必要があります。

5 今後の方向性

(1) 文化観光の推進と周辺施設との複合化

久々利地区センターとの複合施設であり、可児市の歴史を紹介する施設として利用されています。また、市の陶芸文化を発信する「美濃桃山陶の聖地」のエントランス施設への変更なども検討されています。

今後は、文化観光面の推進を図りながら、隣接する可児市陶芸苑を含めた利用や、建替え時には図書館や同一敷地内の久々利地区センターとの複合化も可能性に含め、検討します。

(2) 既存の公共施設の有効活用

増え続ける文化財資料の保管については、安易に施設を増築せず、遊休施設の有効活用を検討します。

※「可児市観光グランドデザイン」が掲げる7つの観光施策の1つ。旧荒川豊蔵邸及び周辺の整備とともに可児郷土歴史館の名称及び展示内容の変更（美濃桃山陶への特化）が計画として盛り込まれた。

6 施設の劣化状況

建物内部、屋根、外壁について部位ごとの目視による確認を基本とし、部分的に触手及び打診調査を実施しました。

○建物の劣化状況の評価の定義

劣化度	評 価 基 準
A	概ね良好。特に修繕上問題となる事項なし。
B	部分的な劣化が見られる。経過観察または修繕対応。
C	広範囲に劣化が見られる。5年以内に改修が必要。
D	劣化の程度が大きく、早急な対応が必要。
—	点検対象外。

○施設別項目別劣化状況

名称	劣 化 状 況					
	屋根	外壁	内部	電気	給排水	空調
可児郷土歴史館	D	D	C	C	C	C
民俗資料館	D	D	C	C	C	C
文化財収蔵庫	B	B	B	B	B	B
春里文化財収蔵庫	C	B	B	B	B	B

7 施設の日常点検

施設利用者の安全確保、施設の予防保全による長寿命化のため、施設の日常点検（自主点検、法令点検、定期点検）を行います。点検において確認された不具合等については、履歴として記録し、以後に、修繕、改修を行う際や個別施設計画を見直す際に、考慮します。

8 対策の優先順位の考え方

利用者の安全性確保に係る改修を最優先とし、個別施設の劣化状況、各施設の利用状況、今後の方向性等を勘案し、総合的に判断します。

9 対策内容と実施時期

対象施設における今後の対策時期、内容、費用を算出しました。

費用は本計画策定時点における概算であり、工事発注時における詳細な設計や今後の災害発生等の状況、社会情勢の変化により、変動が生じる場合があります。

対策時期についても、本市の財政状況等により、変動が生じる場合があります。

【可児郷土歴史館】

(単位：千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
対策内容						照明器具類					
費用	0	0	0	0	0	526	0	0		0	526
年度計	0	0	0	0	0	526	0	0		0	526

【民俗資料館】

(単位：千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
対策内容				解体撤去跡地整備							
費用	0	0	0	8,037 581	0	0	0	0		0	8,618
年度計	0	0	0	8,618	0	0	0	0		0	8,618

【文化財収蔵庫】

(単位：千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
対策内容						電気					
費用	0	0	0	0	0	2,050	0	0		0	2,050
年度計	0	0	0	0	0	2,050	0	0		0	2,050

【春里文化財収蔵庫】

(単位：千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
対策内容											
費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年度計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0